

仕 様 書

- 1 業務名：林業信用保証業務の「情報系システム」（以下「情報系システム」という。）における信用格付と資産査定結果の整合性を確保するために行う各種分析・検証並びに「情報系システム」の提言についての業務

2 概要

本仕様書は、上記 1 の業務についての具体的な内容を定めるものである。

- (1) 信用保証業務では、信用格付のために「情報系システム」を用いているが、それとは別に資産査定のために「保証先区分」が存在する。
- (2) 保証先区分の判定基準は、主に保証先の財務分析などの指標を採用し、保証先に対する「総合的な判断」という観点を踏まえた上で保証先区分を決定している。当該基準は保証課で行う信用格付の判定基準と概ね同じ考え方に基づいて構築されているが、信用格付の結果には直接リンクしていない。
- (3) 本業務では、信用格付における格付段階ごとに保証先区分とのマトリックス表により分析し、乖離が生じた原因を定量要因(PD 格付)、形式基準(一次格付)、定性要因(最終格付)ごとに解明することで、その解決策を構築し、新たな基準を設定・検証することを目的とする。
- (4) 定性要因項目の絞込みのための現行データによる分析・検証、新たな定性基準の構築。
 - ① 財務指標等定量要因の有効性の検証
 - ② 形式基準(調整ルールレベル)での要因項目の有効性の検証
 - ③ 経営改善計画及び計画実績の評価方法の検証
 - ④ グループ企業の定性要因化
 - ⑤ その他の定性要因項目についても有効な項目を選定し、定性基準の確立・検証

3 業務内容

- (1) 信用格付の最終格付と保証先区分の整合性を確保するための分析・検証、新たな定量要因における基準の構築
 - ① 信用格付と保証先区分の各判別基準で使用する財務指標等定量要因の内容を比較し、基準としての指標の有効性を検証する。
 - ② 情報系システムの PD 格付、一次格付の調整ルールを補完するために必要かつ有効な財務指標等定量要因を抽出する。
 - ③ 現行 PD 格付、一次格付を基に調整ルールを見直し、一次格付における新基準を設定する。
- (2) 定性要因項目の絞込みのための現行データによる分析・検証、新たな定性基準の構築
 - ① 調整ルールレベルでの定性要因項目の有効性の検証
 - ② 経営改善計画及び計画実績の評価方法の検証
 - ③ グループ企業の定性要因化

④ ①により有効な定性要因項目を選定し定性基準の確立・検証

- (3) 保証履歴状況から保証先区分の評価プロセスの検証
- (4) 引当金計算のシミュレーションによる評価と検証
- (5) 信用格付や保証先区分の融合を踏まえた新たな業務フローの改善
- (6) 分析による問題点の抽出と具体的改善点の提言に関する報告

4 業務の範囲

PD 推計モデル構築のような、上記 3 の範囲を超える業務、またモデル修正に応じて必要なシステム対応がシステム保守範囲を超える業務が発生する場合には、別途協議する。

- 5 契約期間：契約締結日を平成 26 年 5 月下旬頃とし、契約締結日から平成 26 年 10 月 31 日（金）

6 その他

詳細については、信用基金担当職員と打ち合わせの上で業務を行うものとする。

以上